

AIYES 通信

横浜スペイン交流協会会報

1992年12月1日発行 第4号 発行・横浜スペイン交流協会事務局

さくら交流事業は今…

= 大いなるロマン スペインに日本の桜を！ =

当協会の根幹をなす事業である「さくら交流事業」が大きく前進し、去る8月に「さくら交流基金」の募集を開始しましたが、会員はもとより、北は青森県から西は長崎県まで、多数の皆様のご協賛をいただき、今も続々とご応募いただいております。心から厚くお礼申し上げます。今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【趣旨】 400年余にわたり友好関係を持ってきたスペインに日本の桜を植樹し、これを両国の友好親善のシンボルとして両国間の絆を太く強くし、市民相互の文化交流の末永い発展を期したいと考えております。スペインに植樹した日本の桜が大きく成長するほどに、日本とスペインとの市民相互の交流が深まり、両国の友好親善関係の発展を支えていくことになると確信しております。

植樹第1号はロンダ市に！

スペインにおける通関が最も難しいといわれている日本の桜。しかし、関係者の地道な努力により、現在、横浜植物検疫所のご指導のもと日本花の会に委託して、スペインでの通関可能な苗木を育生しており、1993年3月には植樹できる見通しとなりました。

ロンダ市（アンダルシア地方）では、市長はじめ文化団体や市民の皆様が、1日も早くと、日本の桜を待ち望んでいます。既に植樹の場所も決まり、植樹後の桜を管理する態勢も整っているとのことです。ロンダ市への桜の植樹が楽しみです。

さくら交流基金にご協賛いただいた方々【1992年11月16日現在・敬称略・順不同】

ライオンズクラブ国際協会 さくら銀行

中村瑛子 中村篤二 中村秀峰 白銀己則
白銀成志 八木 勇 松本信幸 下山貞明
下山宏子 植田伊津 西丸與一 渡辺與五郎
齋藤由基彦 齋藤恒子 齋藤英彦 内山直文
大塘善保 宮沢幸子 佐藤桂子 平島二郎
齋藤史郎 岡部テル 小川良夫 小川きわ
齋藤江ち 高橋フミ 山下喜久恵 東神工芸㈱
石川美知子 ㈱北村商会 熊倉博安 小林哲朗
岩間志郎 岩間昭子 奥村和子 河原 均
栗山由美子 伊藤昭子 宮崎紗伎 永井克衛
永井啓子 山田俊彦 栗田政子 重久伸正
小松原一男 橋本千鶴子 中野美代子 宮道文子
寺原瑛子 相沢 尚 相沢百合子 正木みつ子

野波克子 鈴木正乃 高松朋子 ㈱カレンズ
小西章子 坂田明美 小田泰治 小田美喜子
小田麻理子 市川昌子 谷トシ子 岩沢幸男
上野昌子 井上よし江 勝部重治 須藤節子
柳 貞子 新田弘子 永瀬恵子 新海 守
高梨博子 藤原 守 市東富夫 北村忠次郎
北村瑛子 中村孝子 山中由喜 志村和子
町田弘子 赤井道子 上野淑子 川崎圭子
魚 和 白井澄枝 小沢裕子 赤沢富子
石元道子 増田啓子 長嶋幸子 長嶋慶佳
長嶋聖知子 鞍田 透 和田英利 清水節子
甲斐谷一夫 相沢 翠 高井鋼一郎 岡部 忠
岡部千代子 山本 操 中山靖子 中村恵子
中村孝太郎 及川 寿 及川フミヨ 須田康夫

須田すみ	及川寅寿	及川恵子	及川八則	織本瑞子	三浦正子	朝倉玲子	林千鶴子
及川智子	小山正武	小暮健太	梶川政明	高村百花	田中研一	田中留美子	滝沼真理子
高見とくえ	大庭和芳	長浜勝男	長田茂樹	福島国雄	久米智子	佐藤雅亮	宮田志津江
棟方久男	芦垣登志雄	田崎勝人	山田美喜子	森川裕也	穂葉利子	渡辺文子	天野美根子
中田真弘	井上利雄	井上昭子	長谷川伸子	大須賀博	露木史枝	西住哲司	西住浩子
岡本喜枝子	浅野 寛	山崎一男	山崎笑美子	安藤和男	北見正義	鈴木保男	清水富子
佐野京子	岡田重男	吉村秋子	市沢和子	山中恵子	岡本賢子	田中恒男	田中礼子
佐藤善哉	森 達也	飯塚 功	飯塚康子	田中慎治	田中英治	田中千夏子	田中秀明
阪本 博	梶谷洋司	中井道子	日野 規	ハビエル・エスバルサ	児玉喬夫	児玉安代	
石岡貞子	高柳治子	高柳 駿	香取希代子	志賀節事務所	海老名富美子	（毎日）出屋石材店	
田中精一	芳賀 茂	平賀 彬	大野和男	株横浜三洋堂	E.S.ひまわり	（毎日）横浜産業ホール	
高見信行	原田エツ子	山下翠泉	落合昌子	高見沢佐智恵	ナリタヤエコ	（毎日）石油商公会	
高橋テル	渡辺揚子	吉田泰子	大野義昌	（毎日）河部石材商会	公栄電気産業	アイザワマサエ	
川島順三	寺門信行	朝倉 邦	朝倉雅子	ワタナベカヨ	（毎日）サンクマリア号協会	岡 京子	
杉原義一	森 達也	岩田信子	三洋装備株	岡 幸也	岡 博幸	ハヤシミツコ	
本間詠子	小笠幸雄	本田能教	須崎美恵子				

“スペイン友好親善訪問旅行”実施計画中

近く皆様にご案内いたします。ご期待下さい！

〔趣旨〕「さくら交流事業」に基づき、ロング市（アングルシア地方）に日本の桜を植樹し、市民相互の文化交流を行う。そして、「桜の植樹」について要請をうけているセビリヤ市等を公式訪問する。

- ・実施時期 1993年3月下旬～4月上旬
（約10日間）
- ・訪問先 ロング市・セビリヤ市・バレンシア市（予定）他
- ・共 催 横浜スペイン交流協会
財団法人横浜市海外交流協会
- ・協 力 駐日スペイン大使館・スペイン

政府観光局・イベリア航空・神奈川新聞社

- ・訪問先における行事
 - ロング市 桜の植樹、横浜・日本文化の紹介
市民交歓会
 - セビリヤ市 「さくら交流事業」についての調査、横浜・日本文化の紹介及び市民交歓会
 - ルンガ市 （予定） 同 上
（横浜・日本文化の紹介）横浜紹介のパネル展・盆景・日本舞踊・書画その他

第3回年次総会開催

1992年4月18日（土）神奈川県国際交流センターにおいて、多くの会員の参加を得て、1992年度年次総会が開催されました。

〔議事〕第1号議案「1991年度事業報告」、第2号議案「1991年度収支決算報告及び監査報告」

第3号議案「1992年事業計画（案）」（「さくら交流基金」の募集、ロング市に桜の植樹、スペイン友好親善

訪問旅行、サンク・マリア号の横浜寄港歓迎行事、国際交流パーティー、日西交渉史を学ぶ会、スペイン語講座、会員懇談会等）、第4号議案「1992年度予算（案）」

第5号議案「役員の改選」（理事 新任2名 再任15名、監事 再任2名）について審議し、出席者全員の賛成を得て可決されました。なお、基金は「さくら交流基金」に移管することになりました。（7月に移管済み）

協会のあゆみ(1992年度)

- 3月25日 春田美樹画伯（ロング市在住）と桜の植樹に関するロング市の現況について懇談
- 4月4日 「日西交渉史を学ぶ会」開講（9月まで）
- 4月6日 「ロング市への桜植樹寄付金」（ライオンズクラブ国際協会）の取扱いについて、ライオンズクラブ国際協会及び日本マドリード会と協議
- 4月11日 初級スペイン語教室（当協会主催）開校（第1期 9月まで）
- 4月15日 「さくら交流事業」の実施について駐日スペイン大使、スペイン政府観光局長、イベリア航空及び日本花の会に協力を要請
- 4月16日 「さくら交流事業」の実施について神奈川新聞社に協力を要請
同上について、さくら銀行横浜駅前支店の中西副支店長と打合せ
- 4月18日 横浜スペイン交流協会の理事会及び総会を開催
- 4月28日 サンタ・マリア号（復元船）の神戸帰港記念式典に出席
- 5月9日 当協会の林屋顧問（元駐スペイン日本大使・現さくら銀行顧問）と協議
- 5月21日 勤横浜市海外交流協会に当協会の事業運営に対する支援を要請
- 5月22日 「さくら交流基金」口座を創設
- 6月6日 さくら交流基金の募集方法等について、当協会幹事会で検討
- 6月20日 さくら交流事業について、春田美樹画伯と協議
- 6月27日 「さくら交流事業」の進め方について、当協会幹事会で検討
スペイン料理を楽しむ会「イビサ」（JR東戸塚駅前）
- 7月9日 サンタ・マリア号の横浜寄港について、横浜市港湾局及び博報堂と打合せ
- 7月16日 臨時理事会「さくら交流事業」について審議
- 7月26日 日本マドリード会理事会（下山会長は同協会の理事）で、当協会「さくら

交流事業」に積極的に協力する旨決議

- 8月5日 「さくら交流基金」の募集を開始
- 8月26日 サンタ・マリア号の横浜寄港歓迎式典に出席
当協会の「スペイン情報コーナー」を横浜パシフィコ会場に開設（9月1日まで）
- 8月31日 トゥナ（スペインの大学生による音楽グループ）を招き、「横浜スペイン交流パーティー」を開催（横浜高島屋）
- 9月12日 佐久間先生（当協会主催の「日西交渉史」講師）を囲む懇談会を開催
「オリーブ」（JR石川町駅前）
- 9月14日 「さくら交流事業」について勤日本花の会と協議
- 9月30日 勤日本スペイン協会35周年記念パーティーに出席
駐日スペイン大使ご夫妻と面談
- 10月3日 初級スペイン語教室（第2期）開校（3月まで）
- 10月6日 「さくら交流事業」について、駐日スペイン大使ご夫妻と面談
- 10月9日 「桜の苗木の検疫」について、横浜植物検疫所で打合せ
- 10月12日 「スペイン・ナショナルデー」パーティーに出席（駐日スペイン大使館）
- 10月15日 春田美樹画伯の離日送別パーティーに出席
- 10月18日 「スペイン詩朗読の会」を「オリーブ」で開催
- 10月23日 旧港南区ひまわり親善国際交流協会の「スペイン訪問団」の方々と懇談
- 10月30日 「スペイン友好親善訪問旅行」に関し、勤横浜市海外交流協会と協議
- 11月21日 故佐久間正先生を偲ぶ会を開催
〔当協会の幹事会〕
4月4日、4月18日、5月9日、5月16日、6月6日、6月27日、7月4日、7月16日、8月1日、8月8日、8月22日、9月12日、10月3日、10月18日、11月21日の計15回開催
- * 幹事会は、当協会の事業の企画・実施計画の策定及び運営等を行っています。会員の方々が、それぞれの持ち味を生かしながら、自主的に参加しております。原則として第一土曜日の午後です。あなたの参加をお待ちしております。

横浜スペイン交流協会シンボルマーク決定

協会のシンボルマークが会員の児玉喬夫氏の作品に決定しました。今後このシンボルマークを活用した事業を展開して参りたいと存じます。皆様のアイデアを事務局までお寄せ下さい。

当協会のシンボル・マークに拙作が選ばれ、たいへん光栄に思います。会員の皆様からいろいろ御助言、御協力頂いた事を深く感謝致します。

さて、このマークをデザインする上で、思い浮べたのが次の様なキーワードでした。

「太陽の国・スペイン」「日出する国・日本」そして「横浜」と「桜」又は「桜植樹」等です。

先ず太陽ですが、両国に共通するこれ程強いシンボルはないと考え、これを基に横浜スペイン交流協会の略称 A I Y E S を円(太陽)の中に置くことにして、Y(横浜)の部分を桜の一枝に見て、一輪の花を咲かせることで、当協会のメイン事業である桜植樹を強調し、また象徴としました。

この様にしてまとめたものがこのマークです。

一寸、頼りない一輪の花ですが、植樹を契機に、いろんな方面で交流が盛んになり、この円いっぱいに花 横浜スペイン交流協会シンボルマークが咲きこぼれる様なデザインに描き変えなければならない程、交流が深まり、それが強い絆で末長く続くことを、この桜は夢見ているのではないでしょうか。

児玉 喬夫



サンタ・マリア号寄港イベント

スペイン情報コーナー開設される

サンタマリア号イベントの「情報コーナー」には、多くの会員の方々にお手伝い頂きましたが、その中の何人かの方に感想をうかがいました。(永瀬、上野、佐藤、中村(恵)、他)

- 特別に暑い日々で大変だった。しかし、今まで知らなかった会員と友達になる良いきっかけになった。住所や電話番号を交換したりして、後でトゥナの交歓パーティーでも楽しく話が出来た。
- 場所がステージなどがあるメイン通りの裏側だったことや、看板の使い方があまり良くなかったせいか、人があまり集まって来なかつたのが残念。後でスペインの観光パンフレットのスタンドを外に出したら、少し人が寄ってきた。
- スペインに非常に詳しい人が来て、サンタ・マリア号のことなど話をていったが、こちらがたじたじだった。又、マドリードに知人がいるという人が僕も「さくら基金」に協力しましょうということになって寄附して下さった。トゥナやフラメンコも見られたり、会員の人とも親しく話が出来て、参加して本当に良かったと思っている。
- 暑さなど忘れてしまうほど楽しい毎日だった。会員の方々とお話を出来たのが一番。又、フラメン

コやトゥナも毎日タグで見せてもらえたし、リズムに乗りながら大鍋バエリヤを毎日食べて楽しかった。自転車で買い出しに行くというサンタ・マリア号の船員さんとも会話をかわした。

● 「情報コーナー」としては、さくら基金や旅行パンフレットばかりでなく、もう少し人を魅きつける何か他のアイディアもほしかった。スペインへのふるさと電話が実現出来なかつたのが残念だった。一方、さくら基金を公募する“場”を持てたという事では良い機会だった。いきなり来て賛同して下さる方もいたりして感激だった。



さくら交流基金を前面にした情報コーナー

横浜スペイン交流パーティー TUNA（トゥナ）を迎えて

8月31日夜、横浜高島屋ローズルームで、マドリード文理科大学のトゥナと当協会との交歓会が催されました。スペインの中世から伝わる伝統的な黒ずくめの学生服に身をつつんだ若者5名が、ギター、バンドウーリア、リュートなどの楽器を奏でながら登場した時には、期せずして大きな拍手がわきあがりました。

トゥナとは、この中世からの衣装を身にまとい、哀愁にみちたロマンチックなセレナーデや、スペイン人誰もが口ずさむ陽気な歌をうたいながら夜の街をねり歩く学生グループのことです。トゥナの起源は、スペインに大学ができ始めた13世紀頃から、恋人の窓辺でセレナーデを歌い、その想いを相手の女性に伝える習慣（ロング）を、学生が引き受けたのが最初ではないか、あるいは貧しかった当時の学生が歌をうたい、その見返りとして得たお金で学費や生活費をまかなったのが始め、とも言われていて明確ではありません。

当夜は、時と共に雰囲気はもりあがり、彼らがクラベリートスを歌いだした頃には会員も前に出て共に歌い、まさにスペイン的パーティーとなりました。会員からの色とりどりのリボンのプレゼントには彼らも大喜び。「Oh!」の歓声と共に、たて続けに数曲歌ってくれました。学生らしい明るさとさわやかさ、スペイン人らしい茶目っ気を



演奏するトゥナのメンバー

存分にふりまいて、トゥナは去っていきました。マドリードの街々で、メソンで、マントにつけたリボンをひらひらさせながら、彼らは今夜も歌っていることでしょう。

娘が主（神）の前で泣いている。

惚れて歌い手のマントに

自分がしゅうしたリボンがついてないから。

トゥナがセレナーデを奏でる時

惚れてはいけないよ、娘さん

僕のマントを飾るリボン一本一本に

心のひとかけらをこめる程。

ああ、トゥナには

トゥラララララ……と歌って

通り過ぎさせなさい。

高柳 治子

スペイン・サロン提案大募集！

日本とスペインの絆をより深めるため、スペインの魅力ある変化にとんだ文化・風習を理解することは非常に大切なことと思われます。

協会では、好評だった「日西交渉史」に続く文化講座を来春より開催する方向で検討中ですが、ただいま皆様の「こんな内容の講座を開いてほしい」、「こんな趣向の楽しい集まりがあったなら…」といったご意見ご提案を募集しております。

講師の先生にお心当たりのある方、具体的テーマをお持ちの方などの情報も大歓迎です。下記担当者までお気軽にお知らせください。

・連絡先：飯塚

寺原

齋藤

初級スペイン語教室へのお誘い

第2期の初級講座が始まりました。今からでも間に合います。参加をお待ちしております。会員外の方の受講も大歓迎です。

・日時：92年12月⑤、12、⑯日

93年1月⑩、23、⑩日 2月⑥、⑩、27日

3月⑥、13、27日

各回 午前10時30分～12時

・会場：○印 横浜国際交流ラウンジ

（産貿ホール3F）

その他 サンライフ横浜（戸塚駅東口）

・授業料：会員 8,000円 非会員10,000円

（途中入会のため割引となります）。

・連絡先：スペイン語教室部会

はりきっています！グループ活動

グループ活動もすっかり定着し、親睦の場として大いに賑っています。今回はその受講者の声を紹介します。また、先日急逝された佐久間先生の日西交渉史は、引継ぐ形で新たなグループが誕生する予定です。(前頁参照)

日本とスペイン・歴史の旅を胸に 日西歴史研究グループ

昨年10月にはじまった、佐久間正先生による「日本とスペインの交渉史」の講演会は、毎月1回、毎回約40名の参加者で好評のうちに回を重ね1年たちました。そして10月3日の最終回を1週間後にひかえた9月26日、突然の先生の御逝去で、誠に残念ながら最後のご講義を残したまま終る結果となりました。しかしながら、先生の魅力溢れる名講義は、多くの方々に深い印象を与え、改めて日本とスペインの歴史に関心を持つようになられた方がたくさん増えたことと思います。

11月21日に産貿センター2Fのカフェ・ド・ラベにて、受講していた方々が集まり、佐久間先生の追悼会を行いました。ここに、先生の1年間にわたるご講義に対して厚く感謝申し上げますと共に、心からご冥福をお祈り申し上げます。

講義に出席された方々の声を紹介します。

● 学校では歴史に全然興味なかったのに、歴史が面白くなった。年令を感じさせない若々しい先

生にはげまされた。(岩沢)

● 内容が分かりやすく、歴史が身近になった。先生のお話の中に出てきた本を読みたいので、リストを作ってもらいたい。(上野)

● 知っているようで、よく知らなかったことが分ってきた。例えばキリスト教禁止令が何度も出されてはうやむやになっていたのは何故か、ということがはっきりした。(影山)

● 旅行するためにスペインを知りたいと思って受講したのだが、とても面白く、楽しかった。今は色々な歴史の本を読んでいる。(篠原)

● 先生の個性、お人柄であろうが、大変面白く毎回楽しみであった。私はスペインの文化、芸術に興味があり、2回スペインに行っているが、今度旅行する時は、先生のお話の中にたくさんのヒントがあったので、そのヒントを基にどこを訪ねようかと考えている。(杉本)

● 第1回を聞いた時から非常に感銘を受け皆勤で受講した。長崎出身なので、先生のお話を思いながら歴史の跡を改めてたどってみたい。(永瀬)

寺原瑛子

想いは故郷アンダルシアへ スペイン詩朗読グループ

詩の朗読？ヒメネス？プラテーロ？何らかの形でスペインを学んだ人以外には馴染みが薄いでしょうね。「スペイン詩朗読の会」を企画しても果して何人集まるのか不安でしたが、23名の方が参加され、会場のレストラン「オリーブ」は一杯になりました。私自身も馴染みが薄いのですが、朗読者の尚しょうこさんは「プラテーロの詩の素晴らしさを人に伝えたい」との情熱に燃えているし、ノーベル文学賞のヒメネスの詩には、きっと知らない人でも感激するに違いないし、詩を聞く機会なんて余りないのでから等々自分に言い聞かせて踏切りました。

10月18日の日曜日、レストランを貸切にし、まずスペイン料理に舌鼓を打ちながら歓談に興じました。マスターのご好意による予想以上の料理に大満足。コーヒーとなる頃尚しょうこさんとギタ

リストの高村浩二さんの登場です。尚こうさんは詩の舞台であるアンダルシアの牧歌的雰囲気をイメージしたベージュの衣装。高村さんはスペイン風にドレスアップするとまるでスペイン人の顔ヒメネスの詩に感激して曲をつけたというテレスコの曲を力強さと繊細さを併せ持つ高村さんが演奏する。併せて「プラテーロ」「月」「夕べの鐘」「子守歌」「ロンサール」等の朗読の声が響く。皆、コーヒーを口にするのも忘れて、ヒメネスの心に生きていたアンダルシアの故郷をイメージして聴き入りました。

「初めて聞いて感激した。スペイン旅行で詩集を買ってくる。生の演奏が近くで聞けて素晴らしい。アンダルシアの旅を思い出した。料理、歓談、生演奏の雰囲気が最高だった。音としてスペイン語で聞く機会も是非」等の声を参加者の皆さんからいただきました。身も心もゆったりと豊かに、秋のひと時がこうして流れていきました。

中村瑛子

スペイン語講座顛末記 スペイン語研修グループ

喜びに胸が弾み、やがて苦しみに変わるのが勉強の宿命。三十歳の手習いよろしく、憧れを抱いて6、7年。いつの日かスペイン語を話せる様になれたらと、愛しい女性に身悶えするようにお慕いしていたのに。ナゼ！まあいい。愚痴は言うまい。一度惚れたら何処までも。スペイン語から肘鉄くらうまで。

総勢23名が始まったこの講座、いろんな方達が参加している。4/11から始まった講座に、私は最初から欠席しなければならない。

2回目—教室での第一声の自己紹介で、Me llamo ……と言った時、頭の中は滑り台にブランコ。走馬燈なら絵はみえる。風車になってしまったから始末が悪い。ああ、それから焼け糞の勉強が続いている。皆が明るく太陽の様に感じられる教室。一所懸命頑張っているのに、ご主人の転勤や体調がすぐれずには参加できなくなる方など。

—会員投稿—

バル礼讃

繩本 瑞子 —

私たち夫婦は、10か月間スペイン・ポルトガルを経巡ってきた。いくらか変わっていると言えば、ミニチュア・シュナウザー種の犬を連れて歩いたこと、長い旅を列車とバスを乗継ぎ、時には犬を歩かせてモタモタと移動したことだろう。

予約したホテルを点と点で繋いで行く現代のスマートな旅からは、大きく外れていたが、チビ犬が引き寄ってくれる子供や老人との出会い、思いも寄らぬハプニングの連続で、退屈しているヒマはなかった。どんな辺地に乗り込んでも、バル（居酒屋）というオアシスがあったお陰で旅はいよいよ面白くなつたのである。

私たちは、早朝の犬の散歩を終えると、先ずバルに入って熱いコーヒーを一杯、そして深夜のワインまで1日7、8回は覗いている。いや、焼けるフライパンの上にいるような真夏、10回は入つたろう。ボデゴン、ボデーガ、タスカ、タベルナ、セルベセリィア…と看板はいろいろでも、旅人にとっては似たようなもの。水より安い1杯100円もしないワインやビール、ちょっと小腹が空いたときのわくわくするタパス（つまみ）の数々。常

この講座の最中にオリンピックが始まり、終わった。巷の熱が冷めると、何となく恥ずかしくもある。黄色と黒は勇気の印とドリンク剤でもう一度、気を取り直してみる。（シュワちゃん。りえちゃんではない）

半年が過ぎて今日まで、栗山先生のOtra vez. と Muy bien. のでかい声に脳を痺れさせながら、つい乗せられてしまう。

ペルアーノが教室に来ると聞かされ、どんな素敵な女性なのかとスケベー心が芽生える。間違って大笑い。単語を覚えるための言葉遊びをする人がいては大笑い。しかし、つい笑ってしまう言葉は日本語?????ッテガ。嗚呼、スペイン語でハッハッハと笑えるのはいつのことか。15回目、この時は私も会社を休む気の入れ様。最後に Cielito Lindo を歌って Ay, ay, ay, ay の所で、なぜか日本語のあ~いやいやいやいやと言う安堵感の言葉の様に感じたのは、私だけだろうか。…ますます深みへ！

戸村 武嗣

連になると、市井の人々と体の触れ合う空間は、茶の間のような雰囲気もあって魅力的だった。拙著（犬と旅した遙かな国 JTB出版）に書いた話の種は、ほとんどバルで仕入れたものである。

そして、バルは、授業料なしの語学学校でもあった。あらゆる職業の人出会い、自分の守備範囲を越えておしゃべりを楽しんだ。しかし10か月勤勉にバル学校に通つたにも拘らず成果は、イマイチであった。というのは、みんなが聞きたがることはいつも同じ、私の返事も同じだったからである。「なぜ、犬を連れて旅をしているの？」と。

かの地のバルでは、飲兵衛の夫のことが、今も噂になっているかも知れない…。

旅に出たら、バルのはしごを。



アフリカ大陸行きのフェリーが出る街

スペイン語一言葉・ことば・コトバ…

果物にまつわるお話 東山由美子

スペインに旅をして感激することはたくさんあります、その中の一つがオレンジの安いこと。みずみずしいバレンシア・オレンジを丸かじり…たまりませんね！ところでスペイン語でオレンジはnaranja(ナランハ)。オレンジジュースは zumo de naranja (スモ・デ・ナランハ)。それでは Estoy buscando mi media naranja.はどういう意味でしょうか？「僕のオレンジ半分探しているんだ」ではありません。これは「良き伴侶募集中」の意。

続いてリンゴ manzana (マンサナ) のお話。

ある時スペインで友達の家を探し、通りがかりの人に尋ねると、「Dos manzanas más allá」何でリンゴが出てくるの？一瞬キョトン！なんとこれは「2ブロック先」の意味だったのです。

最後にブドウは uva (ウバ)。大晦日、真夜中12時。Madridの Puerta del Sol(ソル広場)の鐘の音と伴に、広場に集まった人達が12個のブドウを食べて新年に幸多かれと祝う風習があります。今年は除夜の鐘を聞きながら「ソバ」ならぬ「ウバ」の味でスペイン・イヤーを締めくくるというのはいかがでしょうか。それではどうぞ皆さん良いお年を！

「いろ」のお話 高柳 治子

今回はスペイン人が最も好む色、赤についてお話をいたします。彼らにとって色の代表かもしれません。その証拠に、colorado (色彩のある) は赤を意味します。赤の類義語は多く、他にrojo、

granate、grana、bermellón、burdeos、carmesi、carmin、encarnado、などがあります。それぞれ細かい使い方があります。

赤ワインをお望みの時には、vino tintoとおしゃってください。また「赤の他人」と言いますが、これは una persona desconocida.もし El es rojo.と言えば、彼を共産主義者にしてしまいますのでご注意！「真っ赤なうそ」は una completa mentira です。日本語、スペイン語で共通した使い方を2例あげておきます。Se puso rojo de ira、彼は怒りで赤くなった。Se puso roja de vergüenza、彼女は恥ずかしくて赤面した。



編集後記

バルセロナオリンピック、セビリヤ万博、コロンブス新大陸到達500年、誰もがスペインに湧きかえった今年でした。その中で協会の活動も、地道ながら着実に目的に向かって進んでいます。夢のような桜の植樹の話しが、だんだんと現実味を帯びてきました。今回の会報の報告が次号ではどこまで進んでいるか、大いに期待するところです。そして、いつの日か大いなる感動をわかちあいましょう。

南欧料理

EL MUNDO
エル・ムンド

忘年会・新年会は
エル・ムンドでどうぞ！

期間 12月1日火～
1月30日土

忘・新年会セットメニュー

Aセット

- ・ロオードブル
- ・スマーカサーモン
- ・タコのビネグレットソース
- ・イカのスペイン風リング揚
- ・辛いソーセージの盛り合わせ
- ・牛タンの黒胡椒焼き

Bセット

- ・ロオードブル
- ・スマーカサーモン
- ・帆立貝のビネグレットソース
- ・海老とキスのスペイン風天ぷら
- ・牛タンの黒胡椒焼き
- ・辛いソーセージの盛り合わせ
- ・オリジナルサラダ
- ・ミックスバーガー

お一人様 3,000円(税込)

お一人様 5,000円(税込)



各種パーティーのご予約は
TEL 03(3314)0051
新宿区西新宿2-3-3

◆事務局：〒231 横浜市中区桜木町1-1